



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

第 69 回コロイドおよび 界面化学討論会へのお誘い

はじめに

第 69 回コロイドおよび界面化学討論会は 9 月 18 日(火)~9 月 20 日(木)の日程で、筑波大学・筑波キャンパスで開催されます。本学での開催は 1986 年に古澤邦夫先生を中心に「微粒子・分散系の科学」をテーマに開催されたと記録されており、以来 30 年ぶりとなります。筑波大学は私たちの所属する生命環境系以外にも、数理物質科学系、システム情報系、医学医療系、(系は学部に対応する組織)などからなる総合大学です。また、筑波研究学園都市には産業技術総合研究所、物質材料研究機構、高エネルギー加速器研究機構など、コロイド界面化学に関連の深い研究機関が多くあります。討論会はこれらの機関の方々にも、実行委員会に加わっていただき実施します。

主題:「分散系, 凝集, ソフトマターの科学」

今回のテーマは「分散系, 凝集, ソフトマターの科学」です。分散系は、DLVO 理論や朝倉-大沢理論によって凝集分散の閾値に関する理論的骨格が与えられ、広範に応用展開しています。また、1991 年に de Gennes がノーベル賞受賞講演において謳った「ソフトマター」の種は、四半世紀を経て開花し、サイエンスの重要なキーワードとなったと考えられます。これら両者をつなぐ概念が凝集です。このテーマの下、一昨年の旭川「未来を創るアクティブソフトマターの化学」、昨年の神戸「コロイド・界面とそのダイナミクス」を引き継ぎ、盛会に実施

したいと思います。総合講演は、北京航空航天大学の土井正男先生と ERATO 野村集団微生物制御プロジェクト研究総括の野村暢彦先生にお願いしました。

討論会の概要

一般研究発表は、例年どおり、分子集合体、組織化膜、微粒子分散系、固体表面・界面の科学と技術ならびに応用・開発セッションの構成で、それぞれについて口頭、ポスターによる発表を受け付けます。また、若手研究者からの発表には選考委員会によるポスター賞、優秀講演賞が設けられます。2 日目午後には、上述した総合講演のほか、レクチャーシップ賞を受賞された、University of Wisconsin-Madison (USA) の Nicholas L. Abbott 教授と、Universite Paul Sabatier (France) の Patrice Simon 教授の講演が行われます。当日の夕方は、場所をつくば駅近接の「オオクラフロンティアホテルつくば」に移動し懇親会を行います。

科学奨励賞には信州大学の鈴木大介先生と、東京農工大学大学院の近藤 篤先生の 2 名、技術奨励賞には花王株式会社の加賀谷真理子氏がそれぞれ選ばれ、受賞講演が行われます。また、公募した一般シンポジウムには、「イノベーションを支える材料表面」、「平衡・非平衡界面化学の基礎科学と応用技術」、「分散凝集の学理構築への科学と技術戦略」、「Langmuir シンポジウム」、「Supramolecular Self-Assembly and Beyond」の 5 件 (内 2 件は英語による国際シンポジウム) の応募があり、それらをすべて実施する予定です。さらに、例年行われております

「未来のコロイドおよび界面化学を創る若手討論会」、学生会員など若い世代の進路を考える「キャリア探セッション」、市民講座なども例年どおり併設して実施する予定です。

つくばの特徴, アクセス, 参加方法

研究学園都市がスタートして半世紀、TX (つくばエクスプレス) が開通して 10 年が経ち、つくばは約 300 の研究機関、20000 人以上の研究者を擁する日本の科学技術を支える都市から、東京のベッドタウンへと変貌を遂げつつあります。また、5000 人を超す外国人研究者が暮らし、筑波大学にも約 2500 人の留学生が学んでいることなど、日本の科学の国際化をリードしている場ともなっています。

アクセスは、TX のほか、東京駅や羽田空港からの直通バス、常磐線土浦駅、荒川沖駅からのバス、成田空港からの高速バス、さらには茨城空港の利用など多様です。

討論会情報の詳細は、部会ニュースレター会告やホームページをご覧ください。発表申込みの締切りは 6 月 1 日です。また、広告・展示・ランチョンセミナーの出展企業も募集します。部会員以外の方にも是非この機会に研究発表をご検討いただければ幸いです。

https://colloid.csj.jp/div_meeting/69th/

〔第 69 回実行委員長 足立泰久
(筑波大学生命環境系)〕

© 2018 The Chemical Society of Japan